カーボンニュートラル報告書（エグゼクティブサマリー）

この度、ブラザー工業株式会社は、工作機械・ガーメントプリンターの事業活動を含む刈谷工場のスコープ1・2 排出量に対してカーボンニュートラルを実現し、BSI グループジャパン株式会社の ISO 14068-1:2023 の検証を完了しました。

2024 年度のカーボンニュートラル報告書はブラザー工業株式会社のホームページで確認できます。
（ https://global.brother/pub/jp/eco/pdf/2025/kariyaCNreport.pdf ）

◆カーボンニュートラル宣言の対象

ブラザー工業株式会社 刈谷工場（以下、刈谷工場）からの直接的な GHG 排出（スコープ 1）、および刈谷工場に供給されたエネルギーからの間接的な GHG 排出（スコープ 2）を対象としています。事業活動に関係する原材料の調達、製品の使用・廃棄についてのGHG排出（スコープ3のC1、C11、C12）は、2030年までに排出量を 2022 年度比で 28.5%削減するというブラザーグループの目標の中で取り組んでいるため、今回の刈谷工場におけるカーボンニュートラルの範囲に含めていません。

※ GHG とは Greenhouse Gas（温室効果ガス）の略で、地球温暖化をもたらす原因物質を指します。

基準年度の GHG 排出量をベースラインとして、GHG 排出量の削減に取り組みます。基準年度は、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで（2022 年度）です。カーボンニュートラルの報告期間は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで（2024 年度）です。

◆GHG 排出量

報告期間の GHG 排出量は約 6849 t-CO_2e（マーケット基準）で、直接的な GHG 排出の合計は約 1188 t-CO_2e でした。供給されたエネルギーからの間接的な GHG 排出は約 5661 t-CO_2e でしたが、このすべてを再生可能エネルギー由来の電力で調達したことで、実質的な GHG 排出はありませんでした。報告期間は基準年度に対して約 4892 t-CO_2e の GHG 排出量削減となっています。

報告期間では以下の GHG 削減施策を実施しました。

・照明間引き
・人感センサー設置
・パルスブローのエアガンへの変更
・コンプレッサーの設定圧力適正化と休日停止
・生産補助設備の休日停止と動作条件見直し
・エアコンのスケジュール運転
・ガスヒートポンプエアコンの電化

◆カーボンニュートラルへの道筋

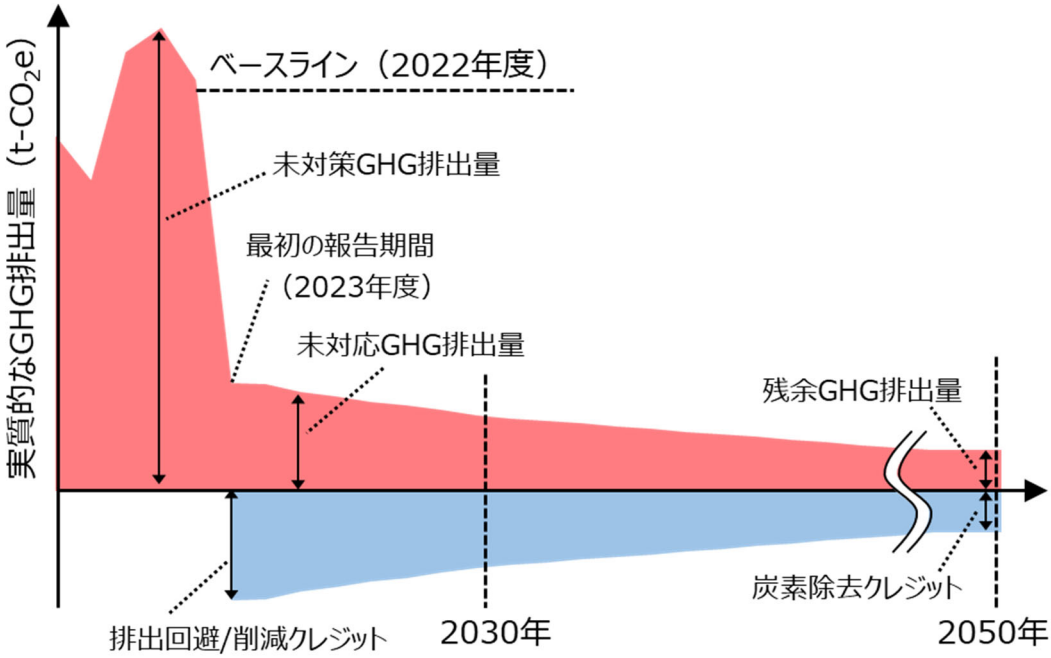

図１　刈谷工場のカーボンニュートラルへの道筋

刈谷工場はカーボンニュートラルへの道筋に従い、GHG 排出量の削減に取り組みます。基準年度の GHG 排出量をベースラインとして、2030 年度の短期目標、2050 年度の長期目標を設定しました。

表１　GHG 排出目標

2022 年度（基準年度）	実質 GHG 排出量 6127 t-CO_2e の排出（未対策）
2030 年度（短期目標）	実質 GHG 排出量 1120 t-CO_2e 以下とする
2050 年度（長期目標）	残余 GHG 排出量のみとする（613 t-CO_2e 以下を目指す）

◆未対応 GHG 排出量の相殺

報告期間では、実質的な未対応の GHG 排出量 1188 t-CO_2e について、炭素クレジットを使用して相殺しました。使用した炭素クレジットは、第三者認証機関の VCS（Verified Carbon Standard）により、二重計上が回避されていることなどが検証されています。